

## 愛知県環境影響評価審査会 会議録

1 日時 2024年(令和6年)3月22日(金)午後1時から午後2時30分まで

2 場所 愛知県環境調査センター 1階 第1会議室

### 3 議事

- (1) 尾張都市計画道路 1・3・2号 名岐道路 環境影響評価準備書について
- (2) 中部国際空港代替滑走路事業に係る環境影響評価準備書について

### 4 出席者

#### (1) 委員

中山会長、大石委員、渡邊委員

#### 【オンライン出席】

阿部委員、市野委員、伊藤委員、岡村委員、長田委員、小野委員、片山委員、神谷委員、北村委員、佐野委員、塚田委員、中野委員、橋本委員、廣岡委員、宮崎委員、横田委員、義家委員

(以上20名)

#### (2) 事務局

環境局：

川村環境局長、近藤技監

環境局環境政策部環境活動推進課：

足立課長、鈴木担当課長、高橋課長補佐、猿渡主査、渥美主査、加登技師

(以上8名)

#### (3) 事業者等

22名

### 5 傍聴人

1名

### 6 会議内容

#### (1) 開会

- ・ 会議録の署名について、中山会長が片山委員と佐野委員を指名した。

#### (2) 議事

ア 尾張都市計画道路 1・3・2号 名岐道路 環境影響評価準備書について

- ・ 資料2について、大石部会長から説明があった。
- ・ 資料1の一部に希少な動植物の位置情報が含まれていることから、中山会長が会議の非公開について委員に諮り、当該部分の審議に限り、会議を非公開とすることとしたが、希少な動植物の位置情報に関する質疑応答はなかった。

<質疑応答>

【中山会長】資料2の部会報告について意見はないため、このまま審査会の答申としてよろしいか。

(委員から意見等はなし)

【中山会長】異議なしとされたので、部会報告の内容をこのまま審査会から知事への答申とする。

- ・ 資料2の「尾張都市計画道路 1・3・2号 名岐道路 環境影響評価準備書について(報告)」を、そのまま審査会答申とすることで了承され、別紙1のとおり答申した。

イ 中部国際空港代替滑走路事業に係る環境影響評価準備書について

- ・ 中部国際空港代替滑走路事業に係る環境影響評価準備書について、別紙2のとおり諮問を受けた。
- ・ 資料3について、事務局から説明があった。

<質疑応答>

【橋本委員】バードストライクの予測及び評価であるが、方法書段階で私は滑走路が2本になることによって、航空機の着陸や離陸のコースが変わるため、秋にタカ類が空港島の南の海上を富具崎から伊勢湾を越えて渡っていくことに対して影響がないかという点を確認していただきたいという意見を出した。

準備書では、空港島の近傍については、離陸場所が変わることによる影響の予測及び評価が丁寧に行われているが、富具崎から伊勢湾を越えるタカ類の渡りに及ぼす影響がどの程度あるのか分からない。

鳥の現地調査は終わっているので、新たなデータはないのは承知しているが、過去のアセスや環境監視等の調査を行っていると思うので、そのデータを活用し、タカの飛行軌跡と新しい着陸・離陸のコースや高度の重なりを評価していただければと思う。

【事業者】御質問いただいた件について、飛行コースの内容等を精査し、次回お示しする。

【佐野委員】離陸時の航空機の経路が変わるとのことだが、海上を飛行するために航空機が旋回すると、航空機の後方部分が陸の方に向くことになる。おそらく高度をかなり上げてから旋回するため騒音の影響は大きくはないと思うが、その影響がどの程度あるのか気になる。影響はないということが示せるのであれば、それを示していただくと、より分かりやすくなると思った。

それから、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による道路交通騒音について、交通量が最大となる時期に予測するのではなく、大型車が多い時期を予測対象時期とするとのことであるが、大型車1台の騒音パワーレベルが小型車の騒音パワーレベルの何台分に相当するかということを示し、

「換算交通量が最大になる時期で予測を行っている」という表現にした方が理解しやすくなると思う。これは環境影響評価書のときに反映してもらえればいいことだと思うが、検討いただきたい。

【事業者】まず航空機の騒音について、航空機が離陸し旋回した際の騒音の影響であるが、準備書の10.3.3-18ページに現況と事業実施後の騒音コンター図を示している。青色の方が現況、橙色の方が事業実施後であるが、旋回したときの騒音の大きさは、高度が高くなってから旋回するため、現況よりも小さくなるシミュレーション結果となっている。

【佐野委員】10.3.3-18ページに掲載されているということで承知した。

【事業者】2点目の道路交通騒音における換算交通量について、道路の沿道の騒音は、工事中と供用後のそれぞれで予測しており、まず工事中については、準備書の10.3.2-11ページに、資材等運搬車両の小型車換算交通量を示している。具体的には、大型車を小型車の4.47台分として月ごとの交通量を算出し、それを踏まえて換算交通量が最大となる時期を予測対象時期として設定している。

一方、供用後のアクセス車両については、準備書の10.3.4-7ページの図10.3.4-3で通過交通量を示している。これは、令和元年度の実績を示しており、灰色の線が大型車の台数を示しており、平日は概ね一定で、休日は少なくなる傾向が見られる。

今回、予測に用いる交通量の設定に当たっては、平日の交通量を基にしており、大型車が多い時期で設定できていると認識しているが、念のため再度検証し間違いがないかを確認しておく。

【佐野委員】供用後の大型車と小型車の比率は、それほど変わらないと思う。しっかりと対応していただけていると思えたので、これで問題ない。

【北村委員】バードストライクの予測について、方法書の段階で、「これまでのバードストライクの発生件数等を基に予測をしてください」と意見を出していたが、その点について、どのように過去のデータを利用したのかが分からなかったのを教えていただきたい。

事業実施後、発生件数が何%減るのか、増えるのかといった定量的な予測を期待していたが、今回は定性的な予測に留まっていると思う。定量的な予測を行わなかった理由等があれば教えていただきたい。

【事務局】準備書の5-21ページに、中部国際空港における年ごとのバードストライク発生件数と年間発着回数との関係を取りまとめた図があり、緑色の棒グラフで示しているのがバードストライクの年間の発生件数、赤の折れ線グラフが年間の発着回数である。発着回数とバードストライクの発生件数は比例関係にはないことから、定量的な予測がしにくいところである。

【北村委員】比例関係はなくても仕方ないと思うが、例えば、バードストライクが発生するのが、離陸時なのか、着陸時なのか、風向きはどういう状況だったのかなどの分析ができると、重要種に対する予測が具体的にできるようになると思う。今回は過去のデータを見せられただけになってしまっているので、もう少しどのように過去のデータを活用したのかという点をきちんと示していただきたい。

【事業者】過去のデータの活用については、準備書の 5-16 ページから掲載しているバードストライクが発生した状況の記録が該当する。

また、予測結果で示したとおり、滑走路上の縦断分布図を作成し、鳥類の飛翔高度等を整理して、航空機との交差が起これるかというところを確認している。

【北村委員】やはりもう少し定量的な予測ができたのではないかと感じるところがある。特に重要種についての影響の予測及び評価は、種ごとに整理することが可能ではないかと思うため、それができるかどうかも含めて検討いただきたい。

【事業者】重要種の予測及び評価を種ごとに行うことが可能かを確認して、次回に回答させていただきたい。

【中山会長】過去のデータ等をどのように活用し、どう予測されたかという点が、各委員が一番気になるところだと思うため、そのあたりを具体的に書いていただければよいと思う。

- ・ 中部国際空港代替滑走路事業に係る環境影響評価準備書について、セントレア滑走路部会（別紙 3）を設置し、その審議が付託された。

### (3) 閉会

令和6年3月22日

愛知県知事  
大村秀章 殿

愛知県環境影響評価審査会  
会長 中山 恵子



尾張都市計画道路 1・3・2号 名岐道路 環境影響評価準備書について (答申)

令和5年12月15日付け5環活第350号の諮問については、別添のとおり答申します。

尾張都市計画道路 1・3・2号 名岐道路 環境影響評価準備書について  
の答申

はじめに

尾張都市計画道路 1・3・2号 名岐道路 環境影響評価準備書（以下「準備書」という。）について、環境の保全の見地から慎重に検討を行った。

都市計画決定権者は、以下の事項について十分に検討し、その結果を環境影響評価書（以下「評価書」という。）に記載する必要がある。また、事業者は、評価書に記載される内容に従って環境保全に万全を期する必要がある。

1 全般的事項

- (1) 事業の実施に当たっては、準備書に記載されている環境保全への配慮事項や環境保全措置を確実に実施することはもとより、環境保全対策に関する最善の利用可能技術を導入するなど、より一層の環境影響の低減に努めること。
- (2) 詳細な工事計画等の作成に当たっては、事業実施段階における周囲の環境の状況や本事業と類似する先行事例の状況の把握に努め、環境の保全に適切に配慮すること。
- (3) 環境への影響に関して新たな事実が判明した場合等においては、必要に応じて適切な措置を講ずること。

2 大気質、騒音、振動

- (1) 工事の実施に当たっては、低公害型の建設機械を積極的に採用するなど、環境保全への配慮事項を徹底し、建設機械の稼働に係る大気質、騒音及び振動の影響の低減に努めること。また、建設機械の稼働に係る騒音の環境保全措置については、事業実施段階において住居等の立地状況を把握した上で、適切に実施すること。
- (2) 工事の実施に当たっては、できる限り効率的な運行による車両台数の抑制及び平準化を図り、工事用車両の運行に伴う道路沿道への大気質、騒音及び振動の影響をより一層低減するよう努めること。
- (3) 本事業の対象道路及び国道 22 号に設置する遮音壁については、当該路線の環境基準を達成するために、事業実施段階における住居等の立地状況や本事業と類似する先行事例における騒音の状況を踏まえ、設置する区間及び種類等を適切に設計すること。また、環境保全措置の実施後、その減音効果が維持されるよう、必要に応じ適切な措置を講ずること。

### 3 水質

工事の実施に当たっては、裸地等から発生する濁水の流出防止のため、水の濁りの状況を確認した上で、必要に応じ適切な措置を講ずること。

### 4 日照障害

遮音壁の材質を工夫するなど、事業実施段階において、できる限り日照障害の低減に努めること。

### 5 動物

道路の存在による鳥類への影響の予測及び評価については、これまでに行った鳥類の飛翔高度に関する現地調査の結果を踏まえたものとする。

### 6 景観

高架構造等の詳細設計に当たっては、できる限り周辺景観と調和したものとなるよう努めること。

### 7 廃棄物等

工事中に発生する廃棄物等について、発生を抑制することはもとより、再使用又は再生利用を徹底するとともに、再使用又は再生利用できないものについては、適正に処理すること。

### 8 その他

- (1) 評価書の作成に当たっては、住民等の意見に配慮するとともに、わかりやすい図書となるよう努めること。
- (2) 事業の実施に当たっては、地元への丁寧な説明等の積極的な情報発信を行うとともに、住民等からの環境に関する要望等に適切に対応すること。

## 検 討 の 経 緯

年 月 日	会 議	備 考
令和5年12月15日	審 査 会	知事からの諮問 準備書の内容の検討 部会の設置及び付託
令和6年1月22日	部 会	準備書の内容の検討 住民意見の概要等の検討
令和6年3月1日	部 会	準備書の内容の検討 関係市長意見の検討 公聴会意見の検討 部会報告（案）の検討
令和6年3月22日	審 査 会	準備書の内容の検討 部会報告 答申の検討 知事への答申

## 愛知県環境影響評価審査会委員

阿部 順子	椋山女学園大学生生活科学部准教授
市野 良一	名古屋大学大学院工学研究科教授
伊藤 由起	名古屋市立大学大学院医学研究科准教授
○大石 弥幸	大同大学名誉教授
岡村 聖	名古屋産業大学現代ビジネス学部教授
長田 和雄	名古屋大学大学院環境学研究科教授
小野 悠	豊橋技術科学大学建築・都市システム学系准教授
片山 直美	名古屋女子大学健康科学部教授
神谷 浩二	岐阜大学工学部教授
北村 亘	東京都市大学環境学部准教授
佐野 泰之	愛知工業大学工学部教授
須山 知香	岐阜大学教育学部准教授
塚田 森生	三重大学大学院生物資源学研究科教授
内藤 久雄	金城学院大学生活環境学部教授
中野 正樹	名古屋大学大学院工学研究科教授
◎中山 恵子	中京大学経済学部教授
橋本 啓史	名城大学農学部准教授
廣岡 佳弥子	岐阜大学流域圏科学研究センター准教授
宮崎 多恵子	三重大学大学院生物資源学研究科准教授
横田 久里子	豊橋技術科学大学建築・都市システム学系准教授
義家 亮	名古屋大学大学院工学研究科准教授
吉永 美香	名城大学理工学部教授
渡邊 幹男	愛知教育大学自然科学系教授

◎会長 ○会長代理

(敬称略、五十音順)

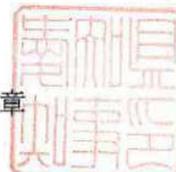
5 環活第 4 5 9 号

令和 6 年 3 月 2 2 日

愛知県環境影響評価審査会

会長 中山 恵子 様

愛知県知事 大村 秀章



中部国際空港代替滑走路事業に係る環境影響評価準備書について（諮問）

このことについて、愛知県環境影響評価条例（平成 10 年愛知県条例第 47 号）第 33 条において準用する同条例第 20 条第 4 項の規定に基づき、貴審査会の環境の保全の見地からの意見を求めます。

担 当 環境局環境政策部環境活動推進課  
環境影響評価グループ

内 線 052-954-6211（ダイヤルイン）

愛知県環境影響評価審査会  
セントレア滑走路部会構成員

委員名	所属等
いちの 市野 良一	名古屋大学大学院工学研究科教授
いとう 伊藤 由起	名古屋市立大学大学院医学研究科准教授
おおいし 大石 弥幸	大同大学名誉教授
おさだ 長田 和雄	名古屋大学大学院環境学研究科教授
かたやま 片山 直美	名古屋女子大学健康科学部教授
きたむら 北村 亘	東京都市大学環境学部准教授
なかの 中野 正樹	名古屋大学大学院工学研究科教授
みやざき 宮崎 多恵子	三重大学大学院生物資源学研究科准教授
よこた 横田 久里子	豊橋技術科学大学建築・都市システム学系准教授

(敬称略、五十音順)